

2/22(土)午後一時 大阪市立住吉区民センターホール

第四回「竹島の日」を考え直す集い

「竹島=独島問題の解決を求めて」対立でなく、友好と共生の絆を守ろう！



海底電線・監視所設営の為の竹島=独島調査（1904年、日本海軍省軍令部）

日本政府は、「竹島-独島問題」は、1952年、李承晩ラインを発端とする戦後問題と主張していますが間違います。1900年10月「大韓帝国勅令四十一号」にて、

独島=竹島は、国際法上にも正式に韓国領でした。しかし、韓国は、日露戦時に、日本の占領下に置かれ主権を奪われていました。日本海軍は、バルチック露艦隊との交戦・ウラジオストック露軍港の戦略要地として、日本海(東海)の鬱陵島・独島=竹島を重視しました。1905年正月の秘密閣議によって、独島=竹島を島根県所管として強奪し、海底電線・監視所を設営しました。このような歴史事実を踏まえず、日本政府は、「竹島は、歴史的にも国際法上も、日本固有の領土」と主張し、韓国の独島領有を「不当」と決めつけ、領土ナショナリズムを鼓吹してきました。和解の道を開いた「日韓新漁業協定」(1998年)の具体化への努力はしません。また、2005年、島根県は、日本政府側の主張だけを是とする「竹島の日」条例を議決しました。かくて、韓国との話し合いの道さえ閉ざしてしまっています。

このような経過から、竹島=独島問題の解決は、日韓両国が領土問題として対立を煽り合うのではなく、日韓両国民が歴史問題として互いに理解しあうことでこそ解決できます。日本政府側の一方通行の領土教育・啓発・島根県「竹島の日」は、敵愾心を強めるだけです。植民地支配の負の歴史を踏まえ、善隣友好こそ戦後日本の課題として積み上げてきた日韓の友好関係と、在日韓国人との共生の絆を傷つけます。

私たちは、正しい歴史事実を学び合い、竹島=独島問題を解決するために集いましょう。
◎日時・会場 2014年2月22日(土)午後一時~。大阪市立住吉区民センター小ホール

◎会場へのアクセス 大阪南海高野線 沢野町駅、東へ300m。裏面地図。☎06-6694-6100

◎内容 開会・閉会の辞、独島=竹島のビデオ上映。本会活動方針の提起。集会決議。

講演1 「ヘイトスピーチを許さず」顧問 戸田ひさよし(門真市議会議員)

講演2 「サンフランシスコ講和条約前後の竹島(独島)帰属論議の分析」

副代表 黒田伊彦(部落解放・人権研究所反差別部会、元大阪樟蔭女子大学講師)

講演3 「大韓帝国勅令は、独島=竹島を正当に領有したことを新史料で証左する」

副代表・理事長 久保井規夫(アジア民衆歴史センター主宰、元桃山学院大学講師)

独島=竹島を正当に領有化した1900年「大韓帝国勅令」の後、1905年閣議決定・「島根県所管告示」は不法侵略であり、2005年「竹島の日」条例も撤回すべきである。